

## ( 八代清流 ) 高等学校 平成 2 9 年度学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
生徒の無限の可能性を引き出すのは我々教師であり、妥協することなく徹底した指導を根気よく続けることが大事である。高校生活 3 年間で人生の最も基礎・基本となることを我々教師は知っている。生徒一人ひとりの財産づくりを支援していくことに全力を挙げ、次に示す人間の育成を目指す。
(1) 豊かな人間性をもち、「自律」した判断・行動ができる次代を担う人間
(2) 目標を高く掲げ、常に「進取」の気概をもって挑戦し、創造への意欲を燃やす人間
(3) 文武両道を目指し、心身を「錬磨」することにより、活力に満ちた逞しい人間

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 感動ある教育を展開し、地域の進学等希望者の夢を地域で叶える学校を目指す。
(2) スポーツが盛んで、文化の香りのする学校を目指す。
(3) 生徒・保護者・地域住民に信頼され、愛される学校を目指す。

A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	今後の学校経営の方向性の具体化	授業改善プロジェクトチームによる提言	大学入試改革、次期学習指導要領改訂に対応できる組織作り	教務主任、進路指導主事、学年代表から成るプロジェクトチームで検討を行い、提言する。	B	4 回の授業改善プロジェクト会議、3 回の職員研修を開催するとともに、1 2 名の職員が校外研修等に参加した。一人ひとりが具体的に実践することが課題である。
	安全な学校づくり	安全管理の徹底と整備	危険箇所の把握と早期対応	安全点検を年に 2 回実施し、安全 100% を目標とする。	B	安全点検の 2 回実施はできたが、日常に潜む危機の発見と改善という意識では行っていない。
		危機管理意識の向上	危機管理マニュアルによる意識の共有化	防火防災訓練の実施と改善、生徒への緊急対応（処置）の周知徹底を図る。	B	火元を事前に知らせない防火訓練を実施し、職員は緊張感をもって臨むことができた。生徒の意識向上が課題である。
	八代清流高校の評価向上	八代清流高校の周知	PR 方法の工夫及び「本校のよさ」の周知	最新ニュースの提供や学校説明会資料の改善を図るとともに清流 S I を打ち出し、募集定員を満たす。	C	HP の更新速度など、情報発信の点では課題がある。清流 S I の策定に向けた取り組みを行っているが、まだ策定に至っていない。清流の日（学校公開）の実施日や内容を検討する必要がある。
進学重視型単位の周知		進学重視型単位の周知	進学重視型単位の特徴やメリットを PR	教育課程や選択科目を動画やスライドを使ってわかりやすく説明する。	B	中学生に向けた説明動画やスライドは見やすく、分かりやすくなった。全職員が単位制や本校の特色について説明できるようになる必要がある。

学力向上	わかる授業の推進	職員の授業力の向上	授業評価システムの再構築と授業力向上を目指した公開（研究）授業の実践	公開（研究）授業、合評会及び教科会（課題共有）、授業評価、実践のサイクルによる授業評価システムをお再構築するとともに、指導主事等を活用した研究授業を実施する。	A	授業改善プロジェクトチームを中心として授業改善に取り組んだ。次期指導要領や大学入試改革についての情報提供やアンケートをとおしての振り返りを繰り返すことで、授業改善への意識の高揚が図られた。今後、個々の授業の中でどのように実践していくのかが課題である。 授業評価を9月に実施したが、そのなかで、質問項目検討の必要性が明らかになった。
	自学自習できる生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	生徒の家庭学習時間を増やすための工夫と、家庭学習のやり方を指導	年3回の家庭学習時間調査結果をもとに各教科で家庭学習時間増加のための方策を検討する。また、面談週間や家庭訪問を利用して、学習の仕方をアドバイスするよう努める。	B	前期末に家庭学習時間調査を実施した。担任との面談の中で活用され、個々の生徒の状況把握やアドバイスを活用された。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	生徒の進路意識の改革	個に応じた進路実現と四年制大学への進学希望者の増加	教務部単位制係と連携し、年6回程度行う面談の充実と1年次からの体系的な進路指導に努める。	B	3年間を見通した面談や進路学習の成果で、大学希望者が増加し、4期生のセンター試験受験者は113名と開校以来最も多い生徒が受験した。
		望ましい職業観・勤労観の育成	高大連携出張講座やインターシップへの積極的な参加および資格取得、検定への挑戦の促進	LHRや総合的な学習の時間「プロメ・プラン」2年次のキャリアプランニング活動の充実を図る。	B	夏に大学出張講座、秋に大学訪問等を行い、生徒の視野の広がりを促すことができた。プロメ・プラン発表会で社会事象と進路を結びつける研究が多く見られた。
	希望する進路を実現するための学力等の育成	生徒の進路希望や学力等の的確な把握と指導	進路希望調査・模試データの有効活用。課外授業、土曜講座の充実	進路希望調査及び模試結果を分析し、個別面談に生かす。課外・土曜講座の出席率100%を目指す。	B	模擬試験の分析は例年より早期に実施し、学年全体の把握につながった。長期休業中の課外は、ほかの特別活動とのバランスが難しく、再検討の余地がある。
		コミュニケーション能力等の育成	小論文指導や面接指導の充実	総合的な学習の時間の活用と、全職員による3年生への小論文・面接の個人指導の実施。	B	職員向け小論文研修や一般入試直前小論文ガイダンスを実施し、全職員で3年生の面接・小論文指導を実施する体制が作られつつある。
生徒指導	生徒の自律心と自尊感情の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	生徒が自ら行動できる環境の整備	生徒が前面に立って自発的に協力して学校行事を運営するような取り組みを行っている。	C	学校行事については、協力して積極的に取り組む姿勢が見られた。集会時の集まりや行動などに課題があり、話を聞く態度が自発的にできるよう指導を行いたい。

		基本的な生活習慣を確立させる。	時間の厳守 挨拶の励行	欠席数を減らす。 朝学習に遅刻させない。	B	年間をとおして遅刻者は少ないが、決まった生徒が遅刻することが問題である。来年度は各学年と協力して遅刻指導の充実を図りたい。
	明るく楽しい学校づくり	問題行動やいじめのない学校づくり	問題の早期発見と素早い対応	アンケートの調査により、問題を発見し、早期かつ適切に対応する。	B	問題行動に対する早期対応はできたが、特別指導の件数が増えたことは真摯に受け止め来年度に向けて改善したい。改善策としては、生徒の様子や行動を細かく観察し、各学年や部活動の顧問からの情報をもとに学校全体で課題や背景を共有して生徒指導に取り組む。
	交通指導の強化	交通マナーの向上	交通講話の実施 二重ロックの推奨	交通講話による交通安全教育を徹底する。 生徒主体の二重ロック点検を実施し、二重ロック100%を目指す。	A	交通指導については、交通講話、年5回の交通指導、交通安全教育を計画的に推進することができた。また、自転車と車との小さな接触事故も2件に抑えることができた。二重ロック点検は、100%のクラスが増え、自発的な定着が伺えた。来年度も指導を継続する。
人権教育の推進	命を大切に する心を育む指導	命を大切に する心を育むプログラムの推進	指導ユニットに従って、心に響く多様な指導を実施	全教科全領域で「生徒の命を大切に する心」を育む指導を実施する。	B	全教科やホームルームなど、あらゆる場面で人権教育を意識して取り組むことで概ね達成できた。来年度は人権教育研究指定事業を核に、生徒・職員がより人権意識を持てる取り組みを実施する。
		自分の夢や目標を持たせ、人の役に立つことや尽くす姿勢を身に付けさせる。	キャリア教育の充実を図り、自分と他者の役割や価値を尊重する態度を育成	将来の目標の設定、自分の考えの発表などとおして、目標達成のための具体策を考えさせる。	B	プロメ・プランでは、全職員が生徒と繰り返し意見交換をしたことにより生徒が情報を収集し、自らの考えをまとめ発表することができた。自己の生き方を見つめる機会となった。
	職員の人権意識の高揚	職員研修の充実	校内研修会の計画的な実施及び外部研修会への積極的な参加	地域で実施される研修会への参加率向上を目指す。 校外研修会への積極的な参加を促す。	B	校内研修は、計画通り実施し、課題の把握や情報交換など収穫があった。夏期における八代地区人権集会や現地研修会についても積極的に参加できた。若手・中堅職員の校外研修への参加が課題である。
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	LHR等による人権教育の充実	校内推進委員会による教育内容の検討と指導の工夫、改善に努める。	B	生徒の状況に応じたLHRを企画し、計画通りに実施した。次年度も生徒の状況を把握し、生徒・職員ともに人権意識の向上に努めたい。

いじめの防止等	いじめの早期発見	生活アンケートによるいじめの早期発見	生徒・保護者へ3回（1・2年生）、2回（3年生）のアンケートを実施	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	年3回のアンケート調査を計画的に実施したことで、いじめの原因になりそうな事案を早期に発見することができた。この取組みを来年度も継続する。
		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査後すぐに担任面談 長期休業後等に担任面談	担任の面談だけでなく、全職員が普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める。	B	担任の事後面談を各学年で実施した。「日常生活の中で何かが起こっている」という意識を全職員が持ち、小さな細かい問題点の見逃しがないように努めたい。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の宣言	「心のきずなを深める月間」における取組の充実	生徒会で「いじめ撲滅標語」を募集し「いじめ撲滅宣言」を作成する。	B	文化祭や生徒会を通じて標語の作成や「いじめ撲滅運動」などに取り組んだ。来年度もこのような取組みを継続する。
		いじめ問題対策委員会の活性化	いじめ事例解決率100%	職員研修を実施する。 いじめ問題対策マニュアルの徹底を図る。	B	いじめ問題対策委員会を実施することで、各学年の事案やSSWのアドバイスを聞くことができ、問題解決の糸口が見つかった。
地域連携（コミュニティスクールなど）	地域からの信頼を得る学校づくり	地域及び保護者との連携	保護者の協力による学校行事の開催	体育大会や文化祭、マラソン大会等で保護者からの協力を得て行事を成功させる。	B	保護者は学校行事に協力的である。マラソン大会では地域に挨拶に行くなどの工夫を行った。
		生徒による地域貢献	地域行事への協力	地域のボランティア活動に積極的に参加する。	B	八代花火大会、妙見祭など地域行事のボランティアに積極的に参加した。日頃の挨拶や清掃などを大切にしたい。
	防災型コミュニティスクールの円滑な運営	学校運営協議会の活用	防災マニュアルの点検、学校に地域住民が避難してきた場合の対応マニュアル、防災教育方針の策定	学校運営協議会での検討結果を踏まえ、本校の方針を策定する。	B	協議会では、委員の方の様々な視点から、多くの活発な意見をいただくことができた。今後は、それらを防災・避難所運営マニュアルに取り入れ、作成を進める。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 学校関係者評価

- ア 本校の進学重視型単位制高校としての活動、授業改善の取組み、生活指導、進路指導について評価していただいた。
- イ 地域、中学校、保護者に対して、八代清流高校のよさ、進路実績、教育活動などについて積極的な情報発信を行う必要がある。また、中学生やその保護者に進学重視型単位制或いは単位制そのものについて理解してもらうための工夫が求められる。
- ウ 学習習慣の定着、生徒の自主的な行動、SNSへの対応は、家庭・小学校・中学校・高校が連携して取り組まなければならない課題である。

##### (2) 学校評議員会における提言・意見

- ア 大学入試改革や学習指導要領改訂を見据えた授業改善の取組みは評価できる。
- イ 企業でも多言語社員の採用を積極的に進めている。外国の学校との交流や海外修学旅行、短期留学等を進め、英語+ほかの外国語の取得を目指したらどうか。
- ウ 清流高校生のあいさつはいいと思うし、自転車マナーも向上している。また、職員は授業改善に向けた取組みを行っている。こうした清流高校のよさをもっと外部に発信していく必要がある。
- エ 情報発信は大切である。「自分たちが周囲から見られている」と分かれば、生徒もさらによくなっていく。ホームページだけではなく、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックなど、誰でも使える媒体を使って発信したらどうか。
- オ あいさつの励行や家庭学習の定着は中学校でも課題である。特に家庭学習時間は二極化が進んでいる。

#### 5 総合評価

##### (1) 三綱領を根底に据えた生徒の育成

- (2)～(6)の重点目標を掲げ、生徒の自律心(自立心)の高揚を図り、自信に満ちあふれた生徒の育成を目指した。3学年は「見ちがえるような自分になる」を学年目標とし、①自己管理能力の育成、リーダーを中心とした自主的集団形成 ②自分で限界を決めない「攻め」の気持ちを支える指導 ③お互いに刺激を与え、受ける集団、厳しさと労りの心の両面を備えた指導を実践し、生徒の進路目標達成に向けた取組みを行った。3年生の学校評価アンケート結果を見ると、学校や自分自身に対しての肯定感が高い。
- 本年度は清流高校S Iを策定するためのチームをつくり、本校生徒の現状や身に付けさせたい力を検討することができた。

##### 【学校評価アンケート】H28年度→H29年度

※数字は「よくあてはまる+ややあてはまる」(以下同じ)

##### N02「本校の教育目標を理解している」

教職員：93%→96% 生徒：66%→71% 保護者：87%→85%

##### N03「本校にはほかの学校にない特色がある」

教職員：91%→93% 生徒：81%→82% 保護者：89%→88%

##### N05「本校の取組が生徒の成長に効果的である」

教職員：93%→90% 生徒：73%→73% 保護者：86%→89%

##### N029「命の大切さについて学ぶ機会が多い」

教職員：84%→75% 生徒：76%→74%

##### N030「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」

教職員：89%→78% 生徒：87%→86%

##### N039「本校に入学してよかった」

生徒：77%(よく32%)→77%(34%) 保護者：92%(49%)→93%(48%)

##### 【その他の評価】

##### ○オープンスクール来校者の声

- ・皆がいろんなことに参加して取り組める。楽しい学校生活が送れる。(本校保護者)
- ・とても雰囲気がいい学校だと感じた。(中学生)

##### ○教育庁学校訪問時の講評

- ・学校の雰囲気がよく、学校全体で取り組んでいる。
- ・生徒がはつらつとしており、職員も笑顔である。

## (2) 平成29年度の重点的な取組

### ア 授業力の更なる向上

大学入試改革・次期学習指導要領改訂に向けて授業改善プロジェクトチームを発足させた。外部講師や県立教育センターの指導主事を招いた校内研修を実施するとともに、他校のスーパーティーチャーの授業参観、民間開催のセミナー等に多くの職員が参加した。授業改善の意識が高まりつつあり、一人一人の具体的な実践と継続が今後の課題である。

#### 【学校評価アンケート】

- N09 「生徒の考えを求める授業をしている」  
教職員：85%→89% 生徒：56%→56%
- N010 「授業で生徒の発言や反応を大事にしている」  
教職員：98%→94% 生徒：79%→84%
- N011 「授業の内容を考えたりする時間が十分にある」  
教職員：79%→81% 生徒：76%→76%
- N012 「生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会がある」  
教職員：72%→69% 生徒：77%→79%
- N013 「分かりやすい授業をいろいろ工夫している」  
教職員：91%→93% 生徒：81%→86%

#### 【その他の評価】

##### ○オープンスクール来校者の声

- ・国語総合の授業が分かりやすい授業だった。現代文では、パネルが使っており授業が分かりやすかった。(中学生)
- ・外部から来て、数学の授業、地理の授業というのは分かるが、その中の何の授業なのかを知ったうえで見たかった。例えば、地理ならば、黒板の隅にでも「ヨーロッパの気候」とか書いてあればよかった。(本校保護者)
- ・3年生の現代文の授業は、生徒が話し合い、考え、文章で表すというように言語活動が多い授業だった。簡潔な板書、たとえ話をを用いた説明で大変分かりやすかった。

##### ○教育庁学校訪問時の講評

- ・参観した地理・公民の授業では活動的な場面が多かった。どのような活動を行えば、どのような目標が達成できるかということを示すとよりよい。

### イ 自律（自立）できる生徒の育成

主体的に授業に臨むこと、家庭学習習慣の定着、生徒会活動の充実、ボランティア活動への積極的参加、集会等における自主的行動を目的とした。授業におけるペア活動やグループ活動に積極的に参加している様子をよく見かけるが、自発的な予習・復習、家庭学習習慣の定着は課題のままである。生徒会活動では執行部がリーダーシップを発揮し、学校行事を盛り上げた。学校評価アンケートでは決して高い評価ではなかったが、多くの生徒がボランティア活動に参加している。達成感や成功体験を少しずつ高め、生徒の自律（自立）を涵養したい。集会等における自主的な行動（自分たちで並ぶ、話を傾聴する）については課題が残る。

#### 【学校評価アンケート】

- N07 「生徒は意欲的に授業に参加している」  
教職員：81%（よく9%）→76%（2%） 生徒：81%（9%）→82%（22%）
- N014 「生徒は自主的に学習する習慣ができています」  
教職員：34%（よく4%）→21%（2%） 生徒：43%（9%）→42%（8%）
- N015 「与えられた課題（宿題）をきちんとこなしている」  
教職員：72%（よく7%）→75%（10%） 生徒：76%（37%）→78%（39%）
- N016 「生徒は予習・復習をきちんと行っている」  
教職員：37%（よく2%）→19%（0%） 生徒：37%（4%）→43%（7%）
- N018 「生徒会活動に関心を持っている」  
教職員：52%（よく6%）→53%（2%） 生徒：28%（7%）→30%（11%）
- N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」  
教職員：87%（よく25%）→80%（34%） 生徒：43%（9%）→45%（15%）
- N038 「体育館の集会で自主的に集合できる」  
教職員：71%（よく11%）→69%（12%） 生徒：82%（27%）→87%（31%）

### 【その他の評価】

#### ○オープンスクール来校者の声

- ・一人一人が自分の意見を大きな声で発言していたことが印象に残った。(中学生)
- ・授業中はほとんどの人がノートをとっていて、発言する時は大きい声で発表していた。スイッチの切り替えができていて、すごいと感じた。(中学生)

#### ウ 部活動の奨励

本年度5月1日付けの部活動加入率は、1年次生98.1%、2年次生88.9%、3年次生90.4%、全体で92.4%であった。高い加入率だったが、部活動をやめる生徒が多かった。運動系・文化系ともに好成績を収めた。ボート部とアーチェリー部がインターハイに出場し、3月の選抜大会出場も決めた。放送部と科学部が全国総合文化祭に出場し、来年度の出場も決定している。陸上部(男子走り幅跳び)とホッケー部は九州大会に出場し、選手の自信につながった。

### 【学校評価アンケート】

#### N019「部活動に積極的に取り組んでいる」

教職員：91%→94% 生徒：78%→74%

#### エ 総合的な学習の時間における「プロメ・プラン」の実施

総合的な学習の時間「プロメ・プラン」の集大成である「プロメ発表会」を今年も開催した。午前中は本校でポスターセッション、午後は八代市ハーモニーホールで発表会を行った。研究の視点、内容、プレゼン資料、プレゼンなど、年々質が高まっている。審査員からの質問に適切に受け答えできた発表者もいた。自ら課題を発見し、考え、表現する力は、一朝一夕では身につかない。職員もこのことを意識して日頃の授業で実践していく必要がある。また、「プロメ・プラン」は自らの将来について真剣に考える場であり、職員も適時適切な進路情報の提供を行わなければならない。本校における体系的なキャリアプランを構築する必要がある。

### 【学校評価アンケート】

#### N035「将来の進路や生き方について考える機会がある」

教職員：87%→88% 生徒：79%→87%

#### N036「進路についての情報提供がある」

保護者：79%→81% 生徒：78%→88%

### (3)「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の推進

生徒たちを認め、ほめ、励ますことにより、生徒たちのやる気を高め、積極的に学習に取り組もうとする態度を育成し、生徒の能力を伸ばすことを目標とした。職員は、本校生徒の現状について、「素直で明るく、まじめであり、今後の伸びしろを十分に持っているが物事に対して受動的である」と考えている。体育大会、文化祭、ダンス発表会、プロメゼミ発表会などの学校行事やボランティア活動、部活動において活躍する場面が多く見られた。日常生活や学習の場面で生徒一人一人の活動を大切にしていきたい。

### 【学校評価アンケート】

#### N018「生徒会活動に関心を持っている」

教職員：52% (よく6%) →53% (2%) 生徒：28% (7%) →30% (11%)

#### N026「ボランティア活動に積極的に参加している」

教職員：87% (よく25%) →80% (34%) 生徒：43% (9%) →45% (15%)

#### N037「積極的に学校行事に参加している」

教職員：87%→83% 生徒：75%→84%

### 【その他の評価】

#### ○オープンスクール来校者の声

- ・毎年参加しているが、それぞれの教科で工夫して授業をしているのが分かった。特に、教師と生徒の関わり方の雰囲気よかった。(本校保護者)

#### (4) 生徒の心に届く生活指導の徹底と教育相談の充実

- 今年度の生徒指導部の重点目標は「誠実な心の育成」「気持ちの良い挨拶」である。また、各年次の生徒指導目標は、1年次「挨拶の励行と整容の徹底」「時間と規範の遵守」「真摯に掃除に取り組む姿勢」「人、ものを大切にできる感性を磨く」、2年次「基本的生活習慣の徹底（気持ちの良い挨拶、時間厳守、集会等での態度、整容など）」、3年次「自己管理能力の育成」である。挨拶については、学校評議員会で評価していただいたが、今後は自主的な、気持ちがこもった挨拶ができる生徒の育成を目指したい。
- 心身に課題を抱える生徒が増加した。年3回の生徒理解に係る研修（情報共有）、合理的配慮協力員による研修、「八代市適応指導教室 くまがわ教室」指導者による研修等を行い、共通理解と職員の特別支援教育に係る指導力向上を図った。教育相談担当者が中心となり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・関係機関と学校・家庭との連携がよく図られた。
- 心のアンケートや本校独自の生活アンケートを実施し、いじめを受けたと回答した生徒が数名いた。早期対応により、ほぼ問題は解決した。近年はSNSにおけるトラブルが増加したが、なかでも、グループ内（仲間内）におけるトラブルが多い。また、コミュニケーション能力や相手の気持ちを理解する力が不十分なことから、生徒間の暴力事案が発生した。

#### 【学校評価アンケート】

##### N04 「生徒は楽しく登校している」

教職員：94%（よく33%）→99%（25%） 生徒：76%（32%）→79%（32%）

##### N022 「いじめや問題行動がなく、明るい学校生活である」

教職員：92%（よく28%）→81%（20%） 生徒：86%（28%）→88%（44%）

##### N031 「学校のルールを守っている」

教職員：92%（よく20%）→94%（10%） 生徒：89%（43%）→91%（50%）

##### N032 「教師は生徒の間違った行動を指導している」

教職員：95%（よく54%）→90%（53%） 生徒：86%（37%）→86%（42%）

##### N033 「教師は生徒の悩みや相談に親身に対応している」

教職員：93%（よく52%）→100%（64%） 生徒：77%（37%）→77%（31%）

##### N034 「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」

保護者：56%（よく20%）→56%（18%） 生徒：63%（24%）→65%（25%）

#### 【その他の評価】

- オープンスクール来校者の声
  - ・何か問題が生じた時にでも、先生方に相談がしやすいので、ありがたく思っている。（本校保護者）
  - ・生徒と先生の近い関係を今後の続けてほしい。（本校保護者）
- 保護者会アンケート
  - ・来校時、掃除時間で生徒がたくさんいたにも関わらず、誰一人としてあいさつがなかった。

#### (5) 危機管理

- 職員一人一人の危機管理能力を高めるとともに、生徒の危機回避能力を育成することを目指した。今年度は火元を特定しない火災避難訓練を実施し、職員は緊張感をもって訓練に臨んだ。その反面、生徒の真剣さが不十分であった。
- 今年から防災型コミュニティスクールを設置した。地域の方や行政の方から、本校が想定すべき危険、洪水が起きた場合の避難場所等について、貴重な御意見をいただいた。現在、避難所運営のマニュアル等を作成しているが、参考にさせていただいた。
- 台風、大雪などによる臨時休業、途中放課等の保護者への連絡は「安心・安全メール」で行っている。本年度は、教頭・事務長・防災主任が「安心・安全メール」発信者となることで、緊急事態に即応できるシステムとした。

#### 【学校評価アンケート】

##### N023 「地震や火災時の行動を具体的に教えている」

教職員：100%→96% 生徒：85%→87%

##### N024 「学校の危険箇所への配慮がなされ、安全である。」

教職員：95%→90% 生徒：73%→78%

##### N028 「大雨のとき「安心安全メール」等を見ている」

教職員：96%→86% 生徒84%→74% 保護者：90%→90%



## (6) 保護者及び地域との連携

- 育友会は非常に協力的である。今後とも連携を深めていきたい。多くの生徒が、祭りや地域行事、小学校や特別支援学校の行事にボランティアとして参加している。次年度は、普段の挨拶や清掃、交通マナーの遵守を向上させることで地域の信頼を高めたい。
- 本年度から設置した学校運営協議会（防災型コミュニティースクール）には学校評議員のほか、高田地区長、市役所の危機管理課の方に参加していただいた。本校周辺の地理的・歴史的観点からの助言が大変参考になった。普段から地域との連携を意識し、「お互いの顔が見える」危機管理（避難所運営）マニュアルを策定したい。

### 【学校評価アンケート】

#### N026「ボランティア活動に積極的に参加している」

教職員：87%（よく25%）→80%（34%） 生徒：43%（9%）→45%（15%）

### 【防災型学校運営協議会】6月28日、7月18日、12月6日、2月26日開催

〔意見〕防災マニュアル、避難所運営マニュアルの作成について

- ・熊本地震の際の学校近隣地域の動きも参考にしながら、作成する。
- ・学校が避難所となった場合、水や食料などの備蓄品の量や、学校がどれだけの機能をもっているかという点をあらかじめ把握しておく。
- ・地域の特性から地震とともに水害時の対応を考えておく。
- ・「自助」「共助」の面では高校生の力も必要である。防災教育の一環として話してもらいたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 「平成29年度の重点的な取組」は継続課題とする。

#### ① 授業力の更なる向上

##### 【具体的な取組】

- 「授業→授業評価→教科会→公開（研究授業）授業→教科会→改善・実践」のPDCAサイクルを活用し、一人一人が具体的な目標を掲げ、学校全体で授業改善に取り組む。

#### ② 自律（自立）できる生徒の育成

##### 【具体的な取組】

- Sノートを活用（スケジュール管理、学習記録、部活動・ボランティア活動等の記録）し、自己管理能力を身に付けさせるとともに、進路目標の達成を見据え、1年間の活動を記録する。

#### ③ 部活動の奨励

##### 【具体的な取組】

- 部活動入部を促すとともに、めりはりのある練習、部室の適切な管理、あいさつ指導等をおし、学校の中核となる人材を育成する。

#### ④ 総合的な学習の時間における「プロメ・プラン」の実施 →「充実」へ

##### 【具体的な取組】

- 1年次からの継続的な研究の実施（審査員からの助言）
- 大学入試改革や学習指導要領改訂を見据えた指導

### (2) 生徒の心に届く生活指導の徹底と教育相談の充実（継続）

##### 【具体的な取組】

- 本年度実施した特別支援教育に関する研修、生徒に関する情報共有は継続する。
- 「誠実な心の育成」「気持ちの良い挨拶の励行」は継続課題とする。

### (3) 危機管理（継続）

##### 【具体的な取組】

- 本校の防災マニュアルを職員・生徒に周知するとともに、学校運営協議会の意見を参考にしながら、防災体制を整える。
- 実践的な防災・避難訓練を継続し、生徒の危機対応能力を育成する。
- 「何か不具合があるかもしれない」「危険があるかもしれない」という意識をもって、日常の安全点検や清掃活動等に取り組む。

(4) 保護者及び地域との連携（継続）

【具体的な取組】

- ボランティアにはよく参加している。継続したい。とくに地域のボランティアでは災害が発生したときを常に念頭にいれ「顔が分かる」対応へとつなげたい。
- 学校運営協議会で本校作成のマニュアルをブラッシュアップし、より実践的で、わかりやすいものとする。

(5) 新しい課題

- ① 情報発信（ホームページの即時更新、効果的・効率的な情報発信方法の検討と実践）
- ② 働き方改革（職員の意識改革、生産性の高い働き方、部活動のあり方）